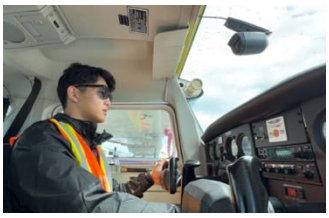
カナダの空を飛ぶ

Supported by トビタテ!留学 JAPAN

「Student Pilot – パイロット訓練生」



僕はカナダにある「Professional Flight Centre」という航空学校で飛行機について、そしてパイロットについて、多くのことを学んできました。現地では、僕自身がパイロット訓練生として、実際に飛行機に乗り、離着陸を繰り返す訓練や、100km 離れた空港まで飛行する訓練を行いました。

みなさんが想像するのは空港で見るようなものすごく大きい飛行機かもしれません。しかし僕が操縦したのは超小型機。機内の幅はエコノミークラス 2 席分で、乗れるのもたった 2 人。エンジンも一つだけの、本当に小さな飛行機です。しかし大きさだけが飛行機のロマンではありません。僕が操縦していた機体は、なんと 51 年前に作られた飛行機。自動操縦なんてありません。ドラマで見るような、画面に囲まれたコックピットではなく、アナログの計器が並んでいます。

フライト中、山の間を飛んでいると上昇気流の影響で機内に床から突き上げるような大きな揺れがしばし襲います。しかし、操縦桿に伝わる揺れの一つ一つが、パイロットとして空を飛んでいることを実感させてくれます。確かに大きな飛行機はかっこいいです。僕も大好きです。でも最新鋭の飛行機であればあるほど、機械がパイロットを助けてくれます。僕が操縦した「おじいちゃん飛行機」にしかない魅力もたくさんあるんです。

「まさかの変更」

当時のフライトの軌跡。予定では左上のバンクーバーを何周かする予定が、途中で 180° 旋回して空港へ戻っています。

クロスカントリーという訓練で、僕はチリワック空港を目指して飛行していました。空港に着陸し、そのまま離陸。ここまでは計画通りでした。離陸してからはバンクーバーのダウンタウンに向かい、その上を旋回し、ベースの空港に戻る予定でした。

しかしダウンタウンに近づき、管制塔に許可をもらおうとすると「利用できる高度はありません」とのこと。結局、引き返してフライトは終わりました。でもこのように計画通り飛行できないことも含めて、ある意味「パイロット訓練生らしいフライト」なのかもしれません。もちろん、予定通り飛べるに越したことはないですが。

「パイロットってほんとすばらしい！」

僕はこの留学を振り返り一言で何か表す、ということができません。現地でどんなことをしたのかは簡単に話すことができるんです。でもこの留学が僕にとってどのようなものだったのか、まだ僕の中に落とし込めていません。それは楽しかった、成長できたという言葉では言い表せないような経験の日々だったからだと思います。

ただ、こうして出会った素晴らしい担当教官や訓練生たちと、パイロットを目指す日々を送ることができたこと、本当に感謝しています。そして、カナダの空を飛べたことをとても誇りに思っています。やっぱり、飛行機って、ほんとすばらしい。そしてパイロットって、ほんとすばらしい。